

池田敬二

教育界にもデジタル化の波が

教育界にもデジタル化、クロスメディア活用の波が押し寄せている。2010年7月には「デジタル教科書教材協議会」が発足し、他にもデジタル教科書教材を巡る書籍が緊急出版されるなど、議論が活発化している。理想的な教育とは、何であるのか。クロスメディアという視点から読み解いてみる。

「デジタル教科書教材協議会」の設立

前号でも触れたが、7月27日にソフトバンク、マイクロソフトや教育・教材系の出版社などが発起人となり「デジタル教科書教材協議会」が設立された。目標はすべての中学生がデジタル教科書・教材を持つ環境を整えること。そのための課題整理や政策提言、ハードウェア・ソフトウェアの開発、実証実験及び普及啓発を進めていくといふ。

開設されたホームページにはこう書かれている。

「全ての子どもに与えよう。

- 1) どこに住んでいても世界中の知識に触れる機会を。
- 2) 創造力、表現力、コミュニケーション力を育む最高の環境を。
- 3) 友人、先生、家族とつながる手段を。」

このメッセージの掲げる理想の通り、デジタルメディアの可能性が教育という現場で活用出来るならば、諸手を挙げて歓迎したい。実際、自分の小中学生時代にこのようなものがあったら、その後の進路も変わっていたのではないかと思われるようなiPad、iPhoneのアプリケーションがいくつかある。

驚くほど魅力的な『元素図鑑』

代表的なものに、ネット上でも絶賛されている『元素図鑑』がある。学生時代に嫌々丸暗記していた元素周期表が題材だ。iPad、iPhoneといったデバイスならではのインタラクティブ性を備えており、無味乾燥に思えた元素記号を扱っているながら驚くほど魅力的なコンテンツに仕上げられている。まず紙の書籍として2009年にアメリカで出版されたが、ウェブサイトやビデオなど複数メディアでの展開をあらかじめ考慮して、様々なアングルから写真や動画を撮りためてあった。iPad発売が発表された2010年4月からアプリケーションとして開発され、わずか60日で作り上げられたといふ。動画や音楽とテキストを組み合わせ、指でタッチすると試料を様々な角度から見られるなど、クロスメディア的な要素を盛り込んだ上に、英語版、フランス語版、ドイツ語版そして日本語版とマルチリンガルに展開されている。

これがデジタル教科書・教材になれば、あらゆるもののが元素によって構成されているという「感動」「発見」を世界中の少年少女にもたらすのではないかと期待がふくらむ。質の高いアプリケーションは生徒たちの興味を喚起し、主体的な学習意欲を増幅させる力を植え付けるだろう。知的好奇心が芽生えれば、電子化されていない様々な参考図書にも関心が広がり、結果的に紙の本の需要や消費も増えと考えられる。

緊急出版された教育への提言

一方で、2010年8月には『緊急提言! デジタル教

育は日本を滅ぼす』(田原総一郎・著、ポプラ社)が出版された。帯には、「デジタル化の波は教育現場にまで押し寄せており、今こそ、教育とは何かを考えることが大切だ!」とある。

タイトルや帯の勇ましい文言から、デジタル化反対の「抵抗勢力」的なメッセージ集かと思えるが、頭からのデジタル否定ではなく、教育にとって何が大切なかを改めて論じ合うことの重要性を終始主張している。デジタルメディアの活用による利便性や効率性を評価しつつも、今の教育が「正解」のある問題を解くことばかり求めていることを危惧し、教育の基本は生身の人間同士のコミュニケーションであるとしている。「『朝まで生テレビ!』は私にとってまだ学びの時間である」とする著者の主張には説得力がある。

NHK教育テレビの『ハーバード白熱教室』で話題になったハーバード大学の政治学者マイケル・サンデル教授の講義は、まさにこの生身のコミュニケーションとしての教育の実践版だ。あらかじめ「正解」のある問題を解くのではなく、与られたテーマに



デジタル教科書教材協議会『デジタル教科書教材協議会の設立について』(2010年5月)より
デジタル教科書・教材のイメージ図(イラスト:ピヨコタン)と「デジタル教科書・教材の機材が備えるべき10の条件(試案)」

池田敬二 [いけだ けいじ]
大日本印刷(株)
電子出版リューション本部
1994年東京都立大学人文学部卒業後、大日本印刷に入社。
入社以来、出版印刷の営業、企画部門を歴任。“混沌の時代こそ面白い”がモットー。趣味はジャズと空手。JAGAT認証クロスメディアエキスパート。日本電子出版協会 クロスメディア委員会委員長。JPM認定プロジェクトマネージャー。

受講者たちが積極的に意見をぶつけ合うスタイルである。こういったトレーニングによって、社会に出たあと否応なしに突き付けられる、状況に応じた瞬時の判断力が養われるのだと思う。

オール・オア・ナッシングに替わる クロスメディアの発想

デジタル教科書・教材を使っても、教員と生徒がSNSで結ばれ、双方向でやり取りをすることにより、コミュニケーション型の「学び」が可能だとする意見もある。しかし、ツイッターやブログでは自分の意見を言えるのに、生身の人間を前にすると表現出来ない人も多いといふ。

教科書・教材においてアナログとデジタルを効果的に融合させ、授業もデジタルと生身のコミュニケーションを共に活用してこそ、理想的な教育に近づけるのだと思う。オール・オア・ナッシングの二元論ではなく、両者が相互補完していくクロスメディアの視点が教育界でも求められてくるだろう。

- 1) 小学1年生が持ち運べるほど軽く、濡らしても、落としても壊れない。
- 2) タッチパネル。
- 3) 8ポイントの文字がしっかり読めて、カラー動画と音楽が楽しめる。
- 4) 無線でインターネットにアクセスできる。
- 5) 学年別に全ての教科書が納まる。
- 6) 作文、計算、お絵かき、動画制作、作曲・演奏ができる。
- 7) 学校でも家庭でも使える。
- 8) 学校でも家庭でも手に入れやすい価格。
- 9) 電池が長持ちする。
- 10) セキュリティ・プライバシー面で安心して使える。